

2022年10月1日(土)

始めあれば終わりあり

群馬大学 電子情報部門 小林春夫

群馬大学アナログ集積回路研究会やこの分野の産学連携の活動をしてきている。また、公開講演会でなくて、学内学生限定の講義も外部から多くの講師を招いてずいぶん開催している。それらを開始する20年位前に、(他界されている)大物から「お前ら、力をつけろ」と言われたが、これは正鵠を射ていると今も思っている。現在多くの情報があふれている、様々なイベントや広報がなされているが、人を惹きつけるのは内容が良いもの、面白いものである。すなわち、大学で人を集めるのに最も重要なのは大学教員が研究教育で実力をつけることである。

群馬大学アナログ集積回路研究会等の活動は、自分の実力をつけるというのが第一義で、産業界の技術者教育等が第一の主眼というわけではない。これが長年継続できた最大の理由である。自分にはあまりに知らないことが多すぎる、いろいろな業種のエレクトロニクス技術を学ぼう、自分で聴きたい内容の講演会をアレンジするということが動機であるので、私はほとんど全て出席している。ずいぶん前に「外部からの参加者に参加費をもらったら」と善意で言ってくれる方があったが、集金・管理の仕事を増やさないほうが良いと思いつつ無料にしている。時間は貴重な資源である。参加者記録すらとっていなかった(今はオンラインで桑名杏奈先生が出席者や感想を管理してくれるが)。また「東京で同じようなセミナーがあるよ、何でやるの」と言われた時も、「自分たちで聴きたいからここでやるんだよ」の気持ちであった。会場も高崎、大田地区の工業地帯での出張講演会ではなく、ずっと群馬大学桐生キャンパスで開催している(現在はオンラインであるが)。

論語に下記の言葉がある。「いにしへの学者は己れのためにし、今の学者は人のためにす」自分の実力をつけるために学問をするというのはいつの時代にも同じであると思う。立派な方の多くは何事に対しても「自分のためにやる」と言われることが多いことを経験している。

家族等を含めた

自分のための働く

自分のために働くとき 最も力を発揮する。

「従業員は 家族、自分のために働け。

それを会社の利益に導くのは経営者の仕事」

(本田宗一郎氏)

「将と卒の利害が一致している軍は強い。」

人の為(ため)と書いて偽(いつわり)と読む

相田みつを 氏

以前、群馬大学主催で栃木県日光市にて「台湾と日本の回路とシステム国際会議」を開催したときにも、運営の仕事だけでなく、研究室の多数の学生に参加・発表させることで、実力向上と結びつけるよう心掛けた。

いずれにせよ、自分たちの実力をつけるということが主眼で イベント的なこととして競争するというつもりはない。大学受験の際に高校生が良い先生について時間をかけて勉強するのが一番重要というのと同じである。日本の科学技術の国際競争力の回復のためにこれが最も重要であろう。

もちろん参加者が多ければ張り合いが出るというのも事実ではある。また、同じ学科の若い先生のアレンジで大学全体や理工学府の HP でもアナウンスしてもらえるようになったのは大変ありがたい。外部から関心をもってもらえるのはモチベーション向上になる。

開催数年はこのような講演会活動が日本の大学であまりなかったということもあり、通常は 40-50 名、多い時には外部から 150 名程度の参加者があった。関西方面からの出席者もあった。やがて同じような企画が増えてきたためか徐々に外部参加者は少なくなってきていた。が、大学での講義も兼ねるようにし基本的に自分のレベル向上のためであるので気にしない。最近ではコロナ下でオンライン化して参加しやすくなり外部参加者がまた増えている。

最近あることを経験した。電子工学分野では教科書に書いてあるが現在はほとんど使われていない技術がときどきある。教科書を読んでいて「その技術はもう使われてないだろう」と推測できるのは、複数企業の方がその技術のことを話題に出していないことから判断できる（明確に、話をしないのは「社外秘のため」でないことはわかる）。すなわち「話に全く出てこない」ということも情報になる。プロ野球での「教えないのが名コーチ」のような逆説的な話である。

生物の個体はなぜ死ぬのかということ時々考える。一番納得がいったのは 次の世代を生かすため、種全体の繁栄のためということである。

中島敦「名人伝」の弓を忘れた弓の名人のごとくなりたいものである。

群馬大学アナログ集積回路研究会は基本的に一研究室でやっており、組織として計画的にやっているわけではないので「引継ぎ」ということはない。自分の群馬大学の定年（2023 年 3 月 31 日）とともに閉じていく。

関係 HP: <https://kobaweb.ei.st.gunma-u.ac.jp/analog-web/analogworkshop.html>
<https://kobaweb.ei.st.gunma-u.ac.jp/tjcas2019/>